

日高 P01 の結果概要 浦河 3007 林班い2 小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林	斜面下部	北	1/1/1	2/2/2	H21.9.2/H26.9.8/R4.7.20
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	57/50/40	9/6/1	0:26/6:18/9:14		0%/33%/64%(50)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	60.4/62.1/71.8		0(0)/9(0)/6(0)		0%(0)/18%(0)/14%(0)
林床	本数密度 (ノ200㎡)		ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	2 / 1 / 0		0%・12・0%/1%・21・0%/1%・34・33%		35/35/46
林床	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
	0%(0)/100%(100)/-		59%・0.21/70%・0.23/35%・0.09		1%/2%/25%

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカ
ンパ類も除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本 食痕 樹皮はぎ	
			数	数 数
カツラ	7	2686	1	
ヤチダモ	2	2642		
シウリザクラ	7	2499		
シナノキ	3	2013	2	2
ミツデカエデ	7	1584	5	4
計	42	14353	14	9

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数			食痕
	1回目	2回目	3回目	3回目
ミツデカエデ	2			
シナノキ		1		
計	2	1	0	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
ジュウモンジシダ	16	12.8%	24.5%	22.5%	27	8
フッキソウ	7	6.8%	8.0%	0.1%	26	0
イッポンワラビ	13	6.1%	20.3%	18.3%	21	13
スゲsp(A)	2	1.4%	5.3%	5.0%	18	0
サツポロスゲ	6	1.1%	0.1%	0.6%	16	1
エゾトリカブト	3	1.0%	0.1%	0.0%	82	0
ミヤコザサ	3	1.0%	1.0%	0.1%	34	1



P01 は、浦河町春別川上流に位置する広葉樹林にある。段丘斜面下の平坦地で、シウリザクラやカツラなどの湿性の広葉樹が多く見られる。本数密度、小径木密度、下枝密度は初回から減少傾向である一方、BA は増加した。新規の下枝食痕率は 64%と高く、過去と比べて増加している。樹皮剥ぎは新規のものは見られなかったが、前回調査時に嗜好性の高いアオダモは全て樹皮剥ぎされ、枯死している。稚樹は元々、低密度だったが消失した。

林床は総被度が 35%と低下し、ジュウモンジシダやイッポンワラビなどの減少が目立つ。林床食痕率は 25%と高い。エゾシカの影響が顕著に見られ、樹木や林床植生の減少が進み、影響が蓄積している。

日高 P02 の結果概要 浦河 3059 林班Ⅱ 2 小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
針広混交林	尾根	南東	1/1/1	2/2/2	H21.9.2/H26.9.8/R4.7.20
毎木	本数密度 (／200 m)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	59/55/47	19/16/11	2:26/7:19/16:17		8%/37%/94%(53)
毎木	BA (m ² /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	68.8/74.5/71.5		1(0)/12(3)/9(2)		2%(0)/32%(8)/26%(6)
稚樹	本数密度 (／200 m)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	2 / 1 / 0		3%・19・0%/2%・20・0%/2%・25・0%		48/28/68
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
0%(0)/100%(0)/-		35%・0.07/50%・0.09/27%・0.08		4%/4%/14%	

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類を除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
トドマツ	12	7381			
ミズナラ	2	2451			
オオバボダイジュ	2	1138	2	2	
サワシバ	10	785	7	7	
イチイ	1	688			1
計	47	14303	17	16	2



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
トドマツ	3	4	26	
サワシバ	1	1		
オオバボダイジュ	1			
計	5	5	26	0



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
スゲsp(A)	18	6.9%	26.8%	10.9%	20	3
トドマツ	17	6.3%	0.7%	0.5%	25	0
オシダ	9	3.9%	4.5%	2.6%	32	5
ミヤマイトチンダ	11	2.1%	3.3%	0.0%	15	0
ミヤコザサ	6	1.9%	3.0%	2.6%	25	0
オオサクラソウ	8	1.2%	0.4%	0.3%	19	0
コキンバイ	16	0.9%	3.4%	2.4%	5	0

P02 は、浦河町春別川上流に位置する針広混交林にある。尾根沿いの急斜面で、トドマツ、ミズナラやサワシバが多い。本数密度、小径木密度、下枝密度は初回から減少傾向である。新規の下枝食痕率は 94%とほとんど被食されており、過去と比べて大きく増加している。新規の樹皮はぎもイチイなどが確認された。広葉樹の稚樹は元々、低密度だったが消失し、トドマツ稚樹は大幅に増加した。

林床の総被度は 27%と前回から減少し、スゲ類の減少が目立った一方、トドマツは増加した。林床食痕率も 14%と増加した。エゾシカの影響が顕著に見られ、樹木や林床植生の減少が進み、影響が蓄積している。

日高 P06 の結果概要 浦河 3166 林班ほ小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
針広混交林	斜面中部	北西	1/1/1	2/2/2	H21.9.1/H26.9.9/R4.7.20
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	66/52/45	34/25/21	0:24/10:17/10:15		0%/59%/67%(47)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	20.5/21.7/24.6		1(0)/6(0)/9(1)		2%(0)/12%(0)/21%(2)
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	27 / 17 / 1		49%・76・79%/54%・85・0%/34%・85・69%		32/34/47
稚樹	稚樹食痕率 (夏季%)	林床	総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
	48%(48)/71%(29)/0%(0)		89%・0.49/95%・0.57/58%・0.38		23%/4%/18%

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンバ類も除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ケヤマハンノキ	2	1001	1	1	1
トドマツ	2	767			
ミズキ	3	739			
カツラ	2	463	1		
バッコヤナギ	1	415			
計	45	4929	15	10	1



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
アオダモ	9	1		
サワシバ	6	2		
ヤマモミジ	5	8	1	
シナノキ	4			
ミツデカエデ	2	1		
計	27	17	1	0



種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
クマイザサ	16	33.8%	54.3%	49.3%	85	11
サップロスゲ	14	16.4%	17.6%	16.1%	27	3
ヤマシケシダ	11	2.2%	1.8%	1.5%	20	9
フタリシズカ	4	1.0%	0.3%	0.0%	16	0
ミヤマハニシダ	3	1.0%	0.5%	0.0%	28	1
ムカゴイラクサ	9	0.6%	1.4%	2.1%	14	0
ジュウモンジシダ	3	0.6%	0.0%	0.0%	17	0

P06 は、三石ダム下流部に位置する針広混交林にある。沢沿いの緩斜面でケヤマハンノキやトドマツが多い。本数密度、小径木密度、下枝密度は初回から減少傾向である一方で、BA は増加した。新規の下枝食痕率は 67% と高く、前回の高い食痕率が維持されている。新規の樹皮はぎは、アオダモが 1 本見られた。稚樹は初回の 27 本から大きく減少し 1 本のみで、アオダモやサワシバは消失した。林床の総被度は前回の 95% から 58% と大きく減少し、クマイザサは 33.8% と前回から 20 ポイント減少した。エゾシカの影響が顕著に見られ、樹木や林床植生の減少が進み、影響が蓄積している。

日高 PO7 の結果概要 静内 107 林班い 1 小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林(ミズナラ)	斜面中部	南	1/1/1	2/2/2	H21.9.15/H26.9.11/R4.7.19
毎木	本数密度 (／200 m)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	94/66/58	55/30/24	47:64/16:34/11:26		73%/47%/42%(0)
	BA (m ² /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
36.1/39.5/42.5		0(0)/5(1)/4(0)		0%(0)/8%(2)/7%(0)	
稚樹	本数密度 (／200 m)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	18 / 0 / 0		58%・29・80%/40%・24・55%/15%・26・15%		29/25/48
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
100%(100)/-/-		75%・0.21/65%・0.14/45%・0.10		28%/9%/9%	

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類も除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ミズナラ	7	3537	3		
サウシバ	28	1685	12	6	
オオバボダイジュ	4	1603	3		
アオダモ	4	648	4	3	
アカシデ	9	620	1		
計	58	8500	26	11	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
サウシバ	5			
アオダモ	4			
ヤマモミジ	4			
アカシデ	2			
ミズナラ	2			
計	18	0	0	



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
ミヤコザサ	20	14.9%	40.2%	57.5%	26	3
スゲsp(B)	19	10.4%	1.5%	1.9%	19	2
ギョウジャニンニク	19	5.0%	0.0%	0.0%	18	1
ヒトリシズカ	6	2.3%	2.4%	1.1%	17	0
マイヅルソウ	19	2.2%	0.1%	0.6%	7	0
オオサクラソウ	8	1.9%	1.2%	0.7%	17	3
シロソウ	4	1.4%	0.0%	0.0%	18	0

P07 は、静内ダム周辺の右岸側に位置する広葉樹林である。林道山側の急斜面でミズナラやサウシバが優占する。本数密度、小径木密度、下枝密度は初回から減少傾向であるが、BAは増加傾向にある。新規の下枝食痕率は42%で前回から微減しているが、高い水準である。新規の樹皮剥ぎは確認されていない。稚樹は前回からすでに消失している。林床の総被度は45%で、初回調査から30ポイントも減少している。特にミヤコザサは58% 40% 15%と大きく減少した。一方で、スゲ類などでは増加が目立つ。樹木や林床植生の減少が進んでおり、エゾシカの影響が蓄積している。

日高 P09 の結果概要 静内 8 林班い 4 小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日	
広葉樹林(ミズナラ)	斜面中部	北東	1/1/1	2/2/2	H21.9.16/H26.9.11/R4.7.19	
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)	
	62/51/41	30/20/11	24:35/11:27/9:23		69%/41%/39%(13)	
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)	
	28.2/31.8/37.3		0(0)/4(2)/3(0)		0%(0)/8%(4)/7%(0)	
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)		林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	5 / 0 / 2			48%・34・50%/37%・27・10%/32%・39・30%		30/31/62
稚樹	稚樹食痕率 (夏季%)		林床	総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
	100%(100)/-/50%(0)			68%・0.19/56%・0.14/51%・0.18		13%/4%/13%

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンバ類も除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
アカシデ	4	1520	1		
ミズナラ	1	1195			
ミズキ	3	1174			
イタヤカエデ	4	997	3		
オオバボダイジュ	2	842	2	2	
計	41	7450	23	9	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
アオダモ	3			
ミズキ	1			
ヤマモミジ	1			
サンショウ			1	1
ミズナラ			1	
計	5	0	2	1



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
ミヤコザサ	20	31.5%	37.2%	47.8%	39	6
アズマスゲ	9	7.7%	0.0%	0.0%	21	4
スゲsp(A)	13	5.7%	6.7%	7.4%	16	0
ヤブマメ	12	1.1%	0.0%	0.0%	14	1
カノツメソウ	15	1.0%	0.9%	0.9%	16	2
ゴンゲンスゲ	8	0.6%	0.0%	0.0%	14	0
ヒトリシズカ	4	0.6%	0.0%	0.1%	14	0

P09 は、シュンベツ川上流に位置する広葉樹林にある。斜面中部の緩斜面でアカシデやミズキなど多くの樹種からなる。本数密度、小径木密度、下枝密度は初回から減少傾向である一方で、BA は増加した。新規の下枝食痕率は 39% で前回から微減しているが、高い水準である。新規の樹皮剥ぎは確認されていない。稚樹は元々少なく、前は消失したが、今回は 2 本だった。林床の総被度は 51% で、初回調査から 17 ポイント減少し、ミヤコザサも 48% 37% 32% と減少した。樹木やササの減少が進んでおり、エゾシカの影響が蓄積している。

日高 P10 の結果概要 静内 11 林班い 2 小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林(ミズナラ)	斜面中部	北西	1/1/1	2/2/2	H21.9.16/H26.9.11/R4.7.19
毎木	本数密度 (／200 m)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	74/61/50	39/27/17	38:41/8:24/10:17		93%/33%/59%(12)
毎木	BA (m ² /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	46.5/49.4/51.6		0(0)/9(0)/5(0)		0%(0)/15%(0)/10%(0)
稚樹	本数密度 (／200 m)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	4 / 2 / 0		79%・52・95%/52%・40・85%/71%・64・20%		25/27/33
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
100%(100)/50%(50)/-		97%・0.46/74%・0.25/93%・0.53		21%/19%/8%	

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンバ類も除く。※BA は胸高直径断面面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ミズナラ	7	5370	1		
オオバボダイジュ	2	2295	1	1	
シナノキ	5	1594			
サワシバ	14	380	9	6	
イタヤカエデ	6	188	1		
計	50	10320	17	10	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
アオダモ	2	1		
アカイタヤ	1			
アカエゾマツ	1			
アカシデ		1		
計	4	2	0	



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
ミヤコザサ	20	70.8%	52.0%	79.3%	64	4
サップロスゲ	18	15.7%	16.5%	10.9%	29	5
フッキソウ	15	1.7%	3.7%	2.5%	18	0
ツルウメドキ	4	0.9%	0.0%	1.0%	39	1
ヤブハギ	6	0.8%	0.0%	1.5%	17	0
カノツメソウ	10	0.6%	0.1%	1.3%	19	0
クルマムグラ	14	0.4%	0.8%	0.1%	17	0

P10 は、シュンベツ川上流で、P09 の約 2km 上流の広葉樹林にある。斜面中部の緩斜面でミズナラやシナノキが多く見られる。本数密度、小径木密度、下枝密度は初回から減少傾向である一方で、BA は増加した。新規の下枝食痕率は 59% と高い。新規の樹皮剥ぎは確認されていない。稚樹は元々 4 本と少なく、今回消失した。林床の総被度は 93% で、前回調査から 19 ポイント増加し、ミヤコザサは 79% 52% 70% と推移している。林床は初期からササが優占しており、影響は顕在化していないが、稚樹や成木の減少は進んでおり、エゾシカの影響が見られる。

日高 P12 の結果概要 新冠 1010 林班い 1 小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林	斜面中部	南西	1/1/1	2/2/2	H21.9.17/H26.9.10/R4.7.20
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	70/58/51	48/38/31	39:50/5:30/12:30		78%/17%/40%(10)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	19.1/21.1/22.6		0(0)/0(0)/2(2)		0%(0)/0%(0)/4%(4)
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	55 / 14 / 3		34%・50・92%/28%・48・82%/30%・47・60%		32/27/49
稚樹	稚樹食痕率 (夏季%)	林床	総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
	96%(96)/36%(7)/33%(0)		62%・0.28/68%・0.23/47%・0.21		21%/10%/13%

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンバ類も除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ケヤマハンノキ	3	2792	3	2	
イタヤカエデ	26	391	16	4	
アサダ	3	348	2		
ミズキ	2	285			1
ヤマモミジ	6	195	4	2	
計	51	4514	30	12	2



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
イタヤカエデ	25	1		
ハシドイ	13	8		
サワシバ	9	1		
ヤマモミジ	5	2		
ニガキ	1		1	
計	55	14	7	1



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
ミヤコザサ	15	30.3%	28.0%	34.3%	47	9
フッキソウ	15	6.3%	11.4%	0.0%	21	0
ムカゴイラクサ	11	3.6%	6.8%	3.7%	17	2
オシダ	5	1.5%	3.0%	1.8%	27	0
コンロンソウ	16	1.1%	1.5%	0.1%	18	1
ナガバハエドクソウ	12	0.9%	4.2%	2.0%	19	4
クルマムグラ	18	0.6%	1.5%	0.5%	16	1

P12 は、新冠川中流に位置する広葉樹林にある。なだらかな斜面で本数密度が高く、小径木のイタヤカエデが多い。本数密度、小径木密度は初回から減少傾向である一方で、BA は増加した。新規の下枝食痕率は 40% で前回から 23% 増加し、高い水準である。新規の樹皮剥ぎはニガキとサワシバで確認されている。稚樹は初期の 55 本から 7 本へと大きく減少し、食痕率は 33% だった。林床の総被度は 47% で、前回から 21 ポイント減少し、フッキソウやムカゴイラクサの減少が目立つ。ミヤコザサは 34% 28% 30% と大きな変化はなかった。稚樹や成木の減少は進んでおり、エゾシカの影響が引き続き見られる。

日高 P13 の結果概要 新冠 1013 林班い1 小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林	斜面中部	南西	1/1/1	2/2/2	H21.9.17/H26.9.10/R4.7.20
毎木	本数密度 (／200 m)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	52/35/33	22/7/5	26:33/9:19/9:12		79%/47%/75%(67)
稚樹	BA (m ² /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	36.1/36.2/39.1		9(0)/8(2)/7(4)		17%(0)/23%(6)/21%(12)
稚樹	本数密度 (／200 m)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	50 / 13 / 0		63%・34・60%/58%・35・45%/41%・36・30%		37/29/51
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
98%(98)/46%(15)/-		98%・0.31/83%・0.29/53%・0.18		18%/10%/13%	

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンバ類も除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
サワシバ	13	3263	3	3	1
アオダモ	7	1514	6	6	4
イタヤカエデ	4	1205			
ホオノキ	2	603	1	1	
ヤマモミジ	2	514	1		
計	33	7824	12	9	4



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
アオダモ	32			
ヤマモミジ	7	5		
ハシドイ	5	2		
サワシバ	5	1		
トドマツ	1	6		
計	51	19	0	



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
ミヤコザサ	20	41.0%	58.0%	62.5%	36	6
オシダ	14	4.2%	13.3%	14.3%	27	4
ハリスゲ	11	2.6%	4.0%	4.6%	14	0
トドマツ	2	1.2%	2.0%	0.0%	60	0
カノツメソウ	19	0.6%	0.9%	4.9%	12	3
モミジガサ	1	0.5%	0.0%	0.3%	35	0
ツタウルシ	1	0.4%	0.0%	0.1%		0

P13 は、新冠川上流に位置する広葉樹林にある。緩斜面でサワシバやアオダモなどが優占する。本数密度、小径木密度、下枝密度は初回から減少傾向である一方で、BAは増加した。新規の下枝食痕率は75%とかなり高い水準である。新規の樹皮剥ぎはアオダモ4本が確認されている。稚樹は初期には50本あったが、今回消失した。林床の総被度は53%で、初回調査から45ポイント減少し、ミヤコザサやオシダの減少が顕著だった。樹木や林床植生の減少が進んでおり、エゾシカの影響が蓄積している。

日高 P14 の結果概要 新冠 1019 林班い 1 小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日	
広葉樹林(ミズナラ)	斜面中部	南	1/1/1	2/2/2	H21.9.4/H26.9.12/R4.7.20	
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)	
	86/68/47	40/26/15	2:34/12:35/13:20		6%/34%/65%(30)	
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)	
	47.1/52.1/54.6		7(0)/14(1)/10(2)		8%(0)/21%(1)/21%(4)	
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)		林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	11 / 5 / 0			74%・62・95%/74%・56・67%/62%・75・70%		24/21/36
稚樹	稚樹食痕率 (夏季%)		林床	総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
	64%(64)/40%(40)/-			80%・0.49/81%・0.60/68%・0.49		22%/18%/12%

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンバ類も除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本 食痕 樹皮はぎ		
			数	数	数
ミズナラ	10	4581	4	1	
アサダ	6	1530	1		
ウダイカンバ	2	1109			
ハリギリ	2	1014	1		
ヤマモミジ	5	981			
計	47	10922	20	13	2



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数			食痕 3回目
	1回目	2回目	3回目	
イヌエンジュ	5	2		
サワシバ	3	1		
トドマツ	2	2		
ヤマモミジ	2	1		
アオダモ	1	1		
計	13	7	0	



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
クマイザサ	20	61.5%	69.5%	73.8%	75	14
オシダ	9	1.6%	0.5%	1.0%	27	0
サッポロスゲ	15	1.4%	1.7%	0.2%	27	0
スゲsp(A)	7	0.9%	2.0%	1.6%	17	0
カノツメソウ	9	0.8%	0.6%	0.7%	23	0
コキンバイ	12	0.2%	0.0%	0.1%	8	0
フッキソウ	11	0.2%	1.0%	0.4%	11	0

P14 は、新冠川上流の下新冠ダム周辺に位置する広葉樹林にある。緩斜面でミズナラやアサダなどが優占する。本数密度、小径木密度、下枝密度は初回から減少傾向である一方で、BA は増加した。新規の下枝食痕率は増加傾向にあり、65%と高い水準である。新規の樹皮剥ぎはハクウンボクとサワシバの計 2 本が確認されている。稚樹は初期に 13 本あったが今回消失した。林床の総被度は 68% で、初回調査から 12 ポイント減少し、クマイザサも 74% 70% 62%と減少傾向にある。稚樹や成木の減少は進んでおり、エゾシカの影響が引き続き見られる。

日高 P16 の結果概要 新冠 2074 林班れ小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日	
広葉樹林	尾根	北	1/1/1	2/2/2	H21.10.2/H26.9.12/R4.7.20	
毎木	本数密度 (／200 m)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)	
	70/62/52	40/33/27	8:32/14:28/12:23		25%/50%/52%(17)	
稚樹	BA (m ² /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)	
	62.9/68.1/66.6		6(1)/4(0)/4(0)		9%(1)/6%(0)/8%(0)	
稚樹	本数密度 (／200 m)		林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	27 / 4 / 0			7%・32・0%/12%・36・0%/18%・44・0%		45/39/57
	稚樹食痕率 (夏季%)			総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
15%(4)/0%(0)/-		34%・0.43/62%・0.21/52%・0.21		3%/8%/12%		

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンバ類も除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
オヒョウ	3	3538	1		
カツラ	2	2784	1	1	
ハリギリ	1	1843			
アカイタヤ	1	1650			
ハルニレ	2	1127			
計	52	13312	23	12	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
ヤマモミジ	6	2		
シウリザクラ	5	1		
アオダモ	5			
キタコブシ	3	1		
イタヤカエデ	3			
計	27	4	0	



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
ミヤコザサ	9	17.5%	11.5%	6.8%	44	0
オシダ	17	12.4%	13.0%	14.6%	42	0
スゲsp(A)	11	5.6%	6.8%	1.9%	19	0
モミジガサ	11	3.0%	8.1%	1.2%	36	2
ツルアジサイ	11	1.4%	0.5%	0.2%	17	3
フッキソウ	11	1.4%	3.1%	0.3%	21	1
ハエドクソウ	11	1.4%	0.4%	0.0%	27	6

調査区 P16 は、厚別川下流域に位置する広葉樹林にある。斜面下部が馬の放牧地に隣接した急斜面で、オヒョウやカツラなど湿性タイプの広葉樹が多い。本数密度、小径木密度、下枝密度は初回から減少傾向である。新規の下枝食痕率は増加傾向にあり、52%と高い水準である。新規の樹皮剥ぎは確認されていない。稚樹は初期に 27 本あったが今回消失した。林床の総被度は 52% で、初回調査からは 18 ポイント増加した。ミヤコザサも 7% 12% 18% と増加傾向にある。林床植生に影響は顕在化していないが、稚樹や成木の減少は進んでおり、エゾシカの影響が引き続き見られる。

上川 E03 の結果概要 上川 2118 林班に小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
針広混交林	緩斜面	西	1/1/1	2/2/2	H21.9.28/H26.9.19/R4.9.2
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	36/36/26	10/10/3	6:18/2:15/3:6		33%/13%/50%(0)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	50.8/55.1/61.5		0(0)/3(0)/1(0)		0%(0)/13%(0)/6%(0)
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)		ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	18 / 11 / 23		26%・115・0%/26%・101・0%/58%・135・28%		42/48/46
稚樹	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
	33%(0)/18%(0)/30%(13)		78%・0.73/62%・0.45/101%・1.07		8%/6%/16%

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査(今年度調査は太字)を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類も除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm2)	下枝本 食痕 樹皮はぎ	
			数	数
シナノキ	9	5797	4	3
トドマツ	2	2542		
ウダイカンバ	1	1673		
ナナカマド	3	1014		
ダケカンバ	2	799		
計	26	12309	11	3



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数			食痕
	1回目	2回目	3回目	3回目
オガラバナ			5	1
オヒョウ	1	6	4	1
イタヤカエデ			4	1
シナノキ	5	2	3	1
ダケカンバ			3	
計	20	11	24	7



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
チシマザサ	18	58.1%	25.6%	25.5%	135	5
シラネウラボ	18	29.7%	19.5%	21.1%	58	0
オクノカンスゲ	9	6.0%	4.4%	0.0%	26	1
ツルアジサイ	15	1.2%	1.9%	2.9%	10	0
エゾイチゴ	5	1.0%	0.0%	1.4%	32	1
オシダ	4	1.0%	2.3%	1.1%	41	1
オオカメノキ	10	0.5%	1.1%	3.4%	15	8

本調査区は、茅刈別地区南部(高標高)の林道沿いの針広混交林に設定されている(林道は車両通行不可)。針葉樹ではトドマツが、広葉樹ではシナノキが多い。2009年調査時から林内にシカ道があり、シカによる植生への影響が見られる。下枝食痕率は今回50%で、樹皮剥ぎ率は6%だった。稚樹本数は前回減少したが、今回は24本に回復した。稚樹の食痕率は30%だった。林床は、優占するチシマザサに空隙が多かったが、今回は平均被度が倍増した。ササに食痕が散見され、越冬個体の存在が予想される。低木や高木稚樹の平均被度は調査開始時に比べ、段階的に減少していた。前回から顕著な変化はなく、一部に回復の兆しもあるが、エゾシカの影響が徐々に蓄積しつつある。

上川 E05 の結果概要 大雪東 220 林班よ小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林	堆積地	南	1/1/1	2/2/2	H21.9.29/H26.9.19/R4.9.2
毎木	本数密度 (／200 m ²)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	66/60/51	12/7/6	16:37/3:20/5:16		43%/15%/31%(6)
	BA (m ² /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	67.5/69.0/73.7		13(2)/12(0)/10(1)		21%(3)/21%(0)/20%(2)
稚樹	本数密度 (／200 m ²)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	1 / 0 / 0		4%・40・17%/1%・24・60%/0%・17・25%		57/57/63
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
	100%(0)/-/-		31%・0.12/47%・0.16/40%・0.11		16%/13%/10%

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンバ類を除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ケヤマハンノキ	5	2965	1	1	
ミズナラ	9	2127	2		
ドロノキ	1	1680			
イタヤカエデ	18	1562	7	1	
ミヤマザクラ	4	1545	1		
計	51	14741	17	5	2



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
エゾマツ	1			
トドマツ	1			
ミヤマザクラ	1			
アオダモ				
アカイタヤ				
計	3			



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
コバノイラクサ	18	14.0%	16.0%	3.0%	25	3
エゾトリカブト	16	7.8%	2.9%	4.3%	36	1
ゴンゲンスゲ	8	6.6%	6.2%	5.4%	16	0
ナギナタコウジュ	14	3.6%	2.6%	0.9%	10	0
アオミズ	18	1.6%	0.6%	0.8%	8	0
ムカゴイラクサ	7	1.1%	1.1%	1.9%	16	1
コンロンソウ	13	1.0%	0.3%	0.9%	26	1

本調査区は、層雲峡野営場付近の広葉樹二次林に設定されている。ケヤマハンノキ、イタヤカエデなどが多い。林内にシカ道があり、チシマザサなど林床植生の衰退が顕著で、大規模なシカの越冬地の一部となっている。今回、下枝食痕率は31%、樹皮剥ぎ率は20%だった。ササ食痕率は17%だった。下枝本数は37本 24本 16本、小径木は12本 7本 6本、広葉樹の稚樹は1本 0本 0本、ササの被度は4% 1% 0%にそれぞれ減少した。林床は衰退したササに代わって、コバノイラクサやエゾトリカブトなどの忌避種が増加傾向だった。強烈な被食圧を長く受けてきたことを示しており、今後の更なる影響が懸念される。

上川 E06 の結果概要 大雪東 2320 林班心小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林	堆積地	南	1/2/2	2/2/2	H21.9.29/H26.9.18/R4.9.20
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	34.5/27.5/19	12/5/0	8:31/7:29/5:17		26%/24%/29%(0)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	35.4/37.6/40.3		2(0)/4(0)/18(18)		3%(0)/9%(0)/58%(58)
林床	本数密度 (ノ200㎡)	ササ (被度・高さ・食痕率)	林床種数		
	0 / 0 / 0		89%・109.5%/90%・120.0%/84%・114.5%	10/8/3	
林床	稚樹食痕率 (夏季%)	総被度%・現存量 m ³ /m ²	林床食痕率%		
	-/-/-	106%・1.15/107%・1.28/106%・1.19	8%/0%/19%		

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類を除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
オヒョウ	24	5755	14	5	18
ドロノキ	3	4750			
シラカバ	3	3234			
ダケカンバ	1	972			
オノエヤナギ	3	619	2		
計	38	16108	20	5	18



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
無し				



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
クマイザサ	20	83.8%	90.0%	89.0%	114	1
エゾイラクサ	20	22.1%	5.6%	5.3%	101	7
コンロンソウ	2	0.1%	0.0%	0.6%	7	0
ヨブスマソウ			0.1%	0.5%		
アキタフキ			10.6%	9.6%		
オオハナウド			0.0%	0.1%		
チシマアザミ			0.1%	1.0%		

本調査区は、石狩川流域の銀泉台地区の林道沿いの広葉樹二次林に設定されている。二次的やや湿った環境を反映してオヒョウの小・中径木が多く、林床はクマイザサが密生する。過去二回の調査で、下枝食痕率は 24~26%と高かったが、樹皮剥ぎ率は 10%未満だった。今回、下枝食痕率は 29%とこれまでと同程度だったが、樹皮はぎ率は 58%に急増した。ササ食痕率は 5%だった。下枝本数は 31 本 29 本 17 本、小径木は 12 本 5 本 0 本と減少した。稚樹は今回もまったく確認されなかったが、これはササの被圧による影響のためと考えられる。林床はクマイザサ以外では、エゾイラクサが生育したが、それ以外はコンロンソウのみだった。エゾイラクサには食痕が多く見られた。前回まではエゾシカの影響は中程度だったが、今回は顕著な樹皮はぎが見られ、状況が大きく変化した。今後、オヒョウの小~中径木の枯死が進むことが予想される。

上川WO1の結果概要 美瑛 1021 林班り小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日	
河畔林	堆積地	なし	1/1/1	2/2/2	H21.9.24/H26.9.18/R4.9.1	
毎木	本数密度 (／200 m)		新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)	
	61/50/34		14/12/5		3:24/5:33/7:18	13%/15%/39%(17)
	BA (m ² /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)	
34.3/35.7/33.6		0(0)/4(2)/8(3)		0%(0)/8%(4)/24%(9)		
稚樹	本数密度 (／200 m)		ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数	
	8 / 4 / 9		80%・145・15%/46%・112・5%/49%・116・5%		30/27/43	
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%	
13%(13)/50%(0)/44%(11)		97%・1.24/73%・0.68/81%・0.84		4%/9%/8%		

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカシ類も除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ハルニレ	11	4106	7	3	2
オニグルミ	1	980	1		
ヤマグワ	8	433	3	1	
ハリギリ	3	414			
ミズキ	3	267	3	1	
計	34	6730	18	7	3



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
トドマツ	2	1	2	
アカイタヤ	4		2	1
オニグルミ			2	
ヤチダモ			2	2
キタコブシ	1		1	
計	10	5	11	4



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
クマイザサ	20	48.9%	46.0%	79.8%	116	1
フッキソウ	18	8.3%	9.9%	9.1%	24	0
サルナシ	5	4.0%	0.0%	0.3%	131	1
ジュウモンジシダ	9	3.5%	3.2%	2.4%	49	0
ヨブスマソウ	12	3.2%	1.5%	0.0%	98	2
ミヤマベニシダ	9	3.1%	3.5%	1.5%	36	0
オシダ	2	2.0%	1.5%	0.8%	45	0

本調査区は、美瑛地区南部の林道沿いの河畔林(落葉広葉樹林)に設定されている。ハルニレが本数、材積ともに優占する。下枝食痕率は13% 15% 39%、樹皮剥ぎ率は0% 8% 24%、稚樹食痕率は13% 50% 44%とそれぞれ増加傾向を示した(ササ食痕率は15% 5% 5%)。広葉樹の稚樹本数は8本 4本 9本と回復したが、下枝本数は24本 33本 18本に減少した。林床にはクマイザサが優占し、食痕は多少見られる程度である。なお、ササの平均被度は80% 46% 49%と一時大きく減少したが、一部で開花枯死が起きたため、シカによる影響ではない。ササの減少に代わり、シダ類の被度がやや増加傾向を示した。エゾシカの影響が強まっているといえる。

上川 WO2 の結果概要 美瑛 216 林班か小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
針広混交林	緩斜面	南東	1/1/1	2/2/2	H21.9.25/H26.9.17/R4.9.1
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	137/121/101	88/77/66	1:72/1:59/14:54		1%/2%/26%(20)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	34.3/35.0/30.4		1(0)/1(0)/2(1)		1%(0)/1%(0)/2%(1)
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	50 / 39 / 24		19%・108・17%/26%・106・0%/39%・120・13%		29/30/33
稚樹	稚樹食痕率 (夏季%)	林床	総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
	0%(0)/10%(0)/33%(29)		73%・0.72/69%・0.62/67%・0.76		8%/14%/17%

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類を除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm2)	下枝本 食痕 樹皮はぎ		
			数	数	数
トドマツ	6	2208	2		
ミズナラ	13	1899	5	1	
アカイタヤ	22	753	7	2	
ハウチワカエデ	43	436	31	9	1
シナノキ	4	425	3	1	
計	101	6097	56	14	1



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	本数	本数	食痕
	1回目	2回目	3回目	3回目
ハウチワカエデ	22	21	16	7
トドマツ	2	2	4	
キタコブシ	4	3	3	
アカエゾマツ	4	2	2	
ミズナラ	3	1	2	1
計	56	43	31	8



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
クマイザサ	16	38.7%	25.8%	18.5%	120	2
ハウチワカエデ	14	8.3%	10.0%	7.7%	91	4
アカミノツグ	6	4.2%	3.8%	5.8%	49	0
ムラサキヤシオ	5	2.6%	2.0%	1.6%	71	0
オオカメノキ	14	2.1%	7.9%	8.3%	44	6
ミズナラ	9	2.0%	2.9%	0.8%	40	3
シナノキ	2	1.8%	1.8%	8.8%	108	0

本調査区は、神居ダム地区の林道沿いの二次的な針広混交林に設定されている。針葉樹ではトドマツ、広葉樹ではミズナラ、ハウチワカエデなどが見られる。以前から林内にシカ道があったが、前回 2014 年までは食痕は少なかった。下枝食痕率は 1% 2% 26%、稚樹食痕率は 0% 10% 33%と増加したが、樹皮剥ぎ率は 1% 1% 2%、ササ食痕率は 17% 0% 13%と増減の傾向は不明瞭だった。小径木は 88 本 77 本 66 本、広葉樹の稚樹は 50 本 39 本 24 本とそれぞれ減少したが、シカの影響ではなく密度効果によるところが大きいと考えられる。林床に優占するクマイザサはパッチ状だったが、増加傾向にある。低木類や高木稚樹も多いが、オオカメノキは食痕率が高く、減少した。全体にエゾシカの影響はまだ軽微であるが、前回より採餌圧がやや高まっている。

上川W03の結果概要 美瑛 227 林班お小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
針広混交林	斜面中部	西	1/1/1	1/1/2	H21.9.11/H26.9.17/R4.8.31
毎木	本数密度 (／200 m)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	64/47/35	24/12/8	5:32/3:18/17:21		16%/17%/81%(43)
稚樹	BA (m ² /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	47.0/50.1/50.2		8(0)/5(0)/3(3)		15%(0)/14%(0)/11%(3)
稚樹	本数密度 (／200 m)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	100 / 5 / 7		46%・102・10%/43%・100・0%/55%・117・17%		29/28/30
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
46%(46)/60%(0)/43%(29)		69%・0.56/69%・0.53/86%・0.61		7%/8%/9%	

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカシ類を除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
トドマツ	7	5466			
オオバボダイジュ	14	4152	13	12	2
ミズキ	1	298			1
バッコヤナギ	1	263	1	1	
ホオノキ	2	193	1		
計	35	10614	21	17	3



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
オニグルミ			4	2
キタコブシ	5	1	2	1
オヒョウ	3		1	
オオバボダイジュ	29	1		
アカイタヤ	4	1		
計	50	5	7	3



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
クマイザサ	20	51.3%	42.7%	46.0%	88	3
オクノカンスゲ	16	16.2%	7.5%		30	0
クルマバソウ	20	5.8%	0.6%	0.7%	25	0
チシマザサ	3	3.3%			146	1
オシダ	5	2.1%	1.6%	2.8%	29	0
ヒトリシズカ	8	2.0%	0.6%	1.0%	25	0
ミヤマイボタ	17	1.3%	3.4%	1.4%	25	9

本調査区は、西神楽地区の林道沿いの針広混交林に設定されている。針葉樹はトドマツ、広葉樹はオオバボダイジュ、ミズキなどが見られる。調査開始時(2009年)から林内にシカ道があり、食痕もやや目立っていた。下枝食痕率は16% 17% 81%と今回大きく増加した。樹皮剥ぎ率は15% 14% 11%だった。稚樹食痕率は46% 60% 43%と3回とも高かった。ササ食痕率は10% 0% 17%と変化した。小径木は12本 12本 8本と微減だったが、稚樹本数は100本 5本 7本と、前回大幅に減少した。林床に優占するクマイザサは密生状態ではないが、今回は被度がやや増加した。エゾシカの影響はまだ中程度だが、下枝の食痕が大きく増加しており、注意を要する。

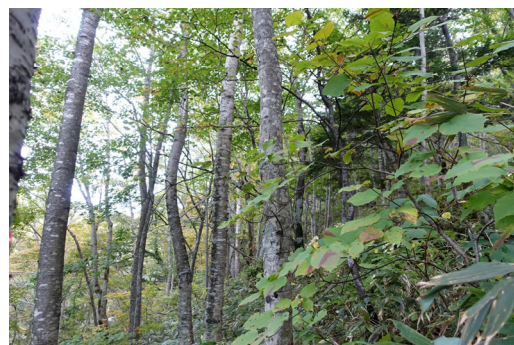
上川 W05 の結果概要 大雪西 1031 林班は小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
針広混交林	斜面中部	北東	1/1/1	2/2/2	H21.9.25/H26.9.18/R4.9.27
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	74/68/48	39/34/22	1:46/0:40/5:31		2%/0%/16%(6)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	44.7/49.8/51.2		2(0)/3(0)/1(0)		3%(0)/5%(0)/2%(0)
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	9 / 11 / 4		71%・107・0%/57%・106・0%/53%・124・0%		44/49/40
稚樹	稚樹食痕率 (夏季%)	林床	総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
	0%(0)/18%(0)/0%(0)		104%・1.00/85%・0.82/92%・0.95		4%/5%/6%

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類を除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
シナノキ	11	3669	6	1	
ウダイカンバ	5	2841			
ミズナラ	2	1427			
ケヤマハンノキ	4	1244	4	1	
エゾマツ	2	673	1		
計	48	10255	33	5	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
オガラバナ	8	8	4	
エゾマツ	5	6	2	
トドマツ	2	5	5	1
オヒョウ	1	2		
アカエゾマツ	1			
計	17	22	11	1



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
クマイザサ	17	53.0%	57.0%	69.8%	124	0
オオカメノキ	6	7.3%	3.7%	5.9%	130	2
エゾアジサイ	3	5.4%	0.8%	3.8%	18	0
ハリウツギ	6	5.4%	3.8%	3.4%	74	1
シラネワラビ	9	3.3%	2.5%	0.7%	22	0
エゾイラクサ	6	2.7%	1.2%	3.0%	71	3
ツルアジサイ	16	2.4%	0.9%	1.3%	18	0

本調査区は、朗根内地区の林道沿いの斜面林に設定されている。針葉樹はエゾマツとトドマツ、広葉樹ではシナノキ、ウダイカンバなどが見られる。下枝食痕率は 2% 0% 16%と増加したが、樹皮剥ぎ率は 3% 5% 2%だった。稚樹の食痕率は 0% 18% 0%となった。下枝本数は 46本 40本 31本と減少傾向、広葉樹の稚樹本数は 12本 16本 9本と今回減少した。林床に優占するクマイザサの平均被度はやや低下傾向だったが、エゾシカの食痕は見られなかった。ササ以外では低木類が見られ、オオカメノキやハリウツギで食痕が観察された。全体にエゾシカの影響は軽微なままだった。

上川W07の結果概要 旭川 267 林班は小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林(ミズナラ)	斜面中部	西	1/1/1	1/1/2	H21.9.11/H26.9.17/R4.8.31
毎木	本数密度 (ノ200 m)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	103/93/59	57/47/23	23:51/3:43/27:38		45%/7%/71%(16)
毎木	BA (m ² /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	36.2/39.9/42.0		2(0)/1(0)/5(3)		2%(0)/1%(0)/9%(5)
稚樹	本数密度 (ノ200 m)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	86 / 50 / 31		56%・92・40%/58%・102・0%/48%・91・0%		20/20/18
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
63%(58)/30%(0)/39%(10)		67%・0.60/66%・0.65/51%・0.47		20%/20%/28%	

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカシ類を除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本 食痕 樹皮はぎ		
			数	数	数
ミズナラ	17	6406	12	6	
ヤマナラシ	1	632			
オオバボダイジュ	4	516	4	3	
アズキナシ	11	461	2	2	1
エゾヤマザクラ	2	211	2	2	
計	59	8469	40	27	3

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数		本数	食痕
	1回目	2回目		
ヤマナラシ		23	14	5
ハウチワカエデ	13	10	9	4
シナノキ	3	4	4	1
ミズナラ		1	1	1
アカイタヤ			1	1
計	43	50	32	12

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	被度%			高さcm	食痕数
		3回目	2回目	1回目		
クマイザサ	20	49.3%	55.0%	58.0%	98	4
ヤマウルシ	9	3.5%	1.0%	1.1%	87	2
ヤマブドウ	4	0.8%	1.5%	2.1%	27	0
ベニイタヤ	7	0.5%	0.5%	0.4%	43	3
ハリギリ	1	0.5%	0.0%	0.1%	136	0
アズキナシ	2	0.5%	0.0%	0.5%	189	1
アキカラムツ	8	0.5%	0.9%	2.1%	47	2



本調査区は、石狩川沿い(旭川市神居古潭)にある教育林内のミズナラ林に設定されている。林床はクマイザサが優占し、高木稚樹や低木類がわずかに混生する。初回調査時には林内にシカの足跡がみられ、前回調査時にもシカの鳴き声が聞かれている。下枝食痕率は45% 7% 71%、樹皮剥ぎ率は2% 1% 9%、稚樹食痕率が63% 30% 39%、ササ食痕率は40% 0% 0%で、全般に前は食痕率が低下したが、今回は再び増加した。小径木本数は43本 47本 23本、稚樹本数は86本 50本 31本と、ともに今回大きく減少した。ササ被度は56% 58% 48%とやや減少した。エゾシカによる冬季の採餌が顕著となり、稚樹の減少だけでなく、広葉樹の小径木の枯死が発生している。食痕率が高いまま経過すると、今後は影響がより顕在化してくることが予想される。

上川 W09 の結果概要 旭川 139 林班い小班

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林(ミズナラ)		斜面中部	西	1/1/1	2/2/2	H21.9.10/H26.9.16/R4.8.30
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数		新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	54/49/47	25/25/18		2:28/0:22/10:13		7%/0%/77%(15)
稚樹	BA (㎡/ha)			樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	57.7/62.2/64.6			2(0)/5(3)/1(1)		4%(0)/9%(5)/2%(2)
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)		林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	18 / 32 / 21			58%・108・20%/55%・109・20%/49%・98・20%		20/19/21
稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%		
0%(0)/16%(0)/43%(5)		65%・0.68/61%・0.63/57%・0.58		8%/17%/18%		

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査(今年度調査は太字)を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類を除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
カシワ	10	8095			
ハリギリ	3	2056	1	1	1
アズキナシ	12	897	3	2	
ミズナラ	1	640	1	1	
アカイタヤ	16	481	5	3	
計	47	12926	13	10	1



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
ヤマナラシ		16	11	1
アカイタヤ	11	10	5	4
アズキナシ	3	3	2	1
オオバボダイジュ	2	1	1	1
ハリギリ	1	1	1	1
計	18	32	21	9



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
クマイザサ	20	49.3%	55.0%	58.0%	98	4
ヤマウルシ	9	3.5%	1.0%	1.1%	87	2
ヤマブドウ	4	0.8%	1.5%	2.1%	27	0
ベニイタヤ	7	0.5%	0.5%	0.4%	43	3
ハリギリ	1	0.5%	0.0%	0.1%	136	0
アズキナシ	2	0.5%	0.0%	0.5%	189	1
アキカラムツ	8	0.5%	0.9%	2.1%	47	2

本調査区は、嵐山地区南部の林道沿いの広葉樹林に設定されている。林冠木はカシワが多く、亜高木層や低木層にはアズキナシやアカイタヤがみられる。林床にはクマイザサが優占する。下枝食痕率は7% 0% 77%、樹皮剥ぎ率は4% 9% 2%、稚樹食痕率は0% 16% 43%と、樹皮はぎ率を除いてそれぞれ増加傾向を示した。ササ食痕率は20%で過去2回と同じだった。小径木数は20本 25本 18本、稚樹は18本 32本 21本とそれぞれ変化した。また、ササの平均被度は58% 55% 49%とやや減少した。全体にエゾシカの影響はまだそれほど顕著ではないが、食痕率の増加が見られることから、今後エゾシカの影響が蓄積されてくることが予想される。

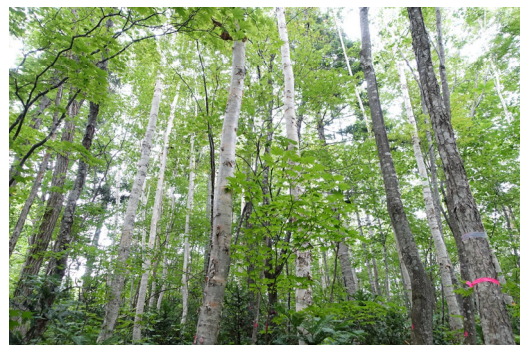
上川W10の結果概要 旭川 113林班ち小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林(ダケカンバ)	緩斜面	西	1/1/1	1/2/2	H21.9.10/H26.9.16/R4.8.30
毎木	本数密度 (／200㎡)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	102/88/84	31/26/26	0:32/2:27/1:33		0%/7%/3%(3)
	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
43.8/49.6/54.6		3(0)/6(0)/3(0)		5%(0)/10%(0)/5%(0)	
稚樹	本数密度 (／200㎡)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	64 / 63 / 73		1%・72・20%/2%・100・20%/1%・94・0%		17/18/19
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
	19%(6)/13%(0)/5%(4)		56%・0.38/99%・0.91/92%・1.01		11%/9%/2%

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンバ類を除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本	食痕	樹皮はぎ
			数	数	数
ダケカンバ	20	4092			
トドマツ	4	1968			
ナナカマド	13	1624	5		
アカイタヤ	14	1016	4		
エゾヤマザクラ	3	778	2	1	
計	84	10932	33	1	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	本数	本数	食痕
	1回目	2回目	3回目	3回目
アカイタヤ	13	23	25	3
ハウチワカエデ	14	15	24	
トドマツ		5	10	
シウリザクラ	3	6	8	
アズキナシ		5	6	
計	32	68	83	4



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
ハイヌガヤ	20	37.3%	40.0%	27.3%	107	0
ツノハシバミ	8	17.8%	12.8%	1.3%	166	0
オオカメノキ	13	12.8%	13.8%	8.6%	69	0
ツタウルシ	15	6.3%	7.8%	2.7%	42	0
ツルシキミ	15	4.5%	2.8%	5.8%	26	0
エゾズリハ	8	3.7%	2.9%	2.2%	50	0
ツルアジサイ	12	3.0%	5.9%	3.3%	19	0

本調査区は、旭川北部の林道沿いの針広混交林に設定されている。林冠はダケカンバが優占し、亜高木層や低木層にはナナカマドなどがみられる。林床はハイヌガヤ、ツノハシバミなどの低木類が目立ち、ササはわずかだが、シカの影響によるものではない。下枝食痕率は 0% 7% 3%、樹皮剥ぎ率は 5% 10% 5%と低かった。一方、稚樹食痕率は 19% 13% 5%と低下し、ササ食痕率は 20% 20% 0%と変化した。下枝本数や小径木数はあまり変化しなかったが、稚樹本数は 73 本と多かった。全体にエゾシカの影響は軽微である。

根釧西部 E01 の結果概要 尾幌 23 林班い小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
針広混交林	緩斜面	南西	1/1/1	1/2/2	H21.9.13/H28.6.21/R4.8.4
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	71/60/53	42/26/11	19:37/7:9/10:15		51%/78%(78)/67%(67)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	40.8/44.0/46.6		36(11)/31(29)/34(28)		54%(16)/55%(52)/69%(57)
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	156 / 2 / 0		10%・35・83%/2%・21・100%/0%・12・0%		48/43/51
稚樹	稚樹食痕率 (夏季%)	林床	総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
	100%(27)/100%(50)/-		71%・0.27/60%・0.24/58%・0.24		27%/21%/18%

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンバ類も除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ダケカンバ	1	2550			
カツラ	7	1824			
アオダモ	27	1372	13	10	22
トドマツ	3	1321	1		
シナノキ	1	791			
計	53	9341	16	10	28

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
トドマツ		1	4	
アオダモ	53			
ヤマモミジ	13			
シウリザクラ	6			
ダケカンバ	3			
計	78	3	4	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
シラネウラボ	18	23.8%	26.5%	24.0%	44	2
フッキソウ	20	13.1%	5.4%	4.4%	23	1
ゴンゲンズゲ	19	11.3%	16.5%	16.1%	17	10
オシダ	4	5.5%	4.2%	4.8%	52	2
ツツヒゲ	15	0.8%	0.3%	0.5%	29	3
アオダモ	19	0.5%	2.2%	2.5%	9	7
ツタウルシ	18	0.4%	0.7%	4.6%	11	0



E01 は、上尾幌地区南部に位置する針広混交林にあり、トドマツやアオダモなどが多い。林床は、シラネウラボなどが優占する。本数密度、小径木密度は初回から減少傾向である一方、BA は増加した。新規の下枝食痕率は 67% と高く、初回から高い水準が維持されている。新規の樹皮剥ぎはアオダモを中心に 28 本あり、新規樹皮はぎ率は 57% と極めて高い。繰り返し樹皮はぎされている個体が多い。稚樹は初回はアオダモ中心に 156 本あったが、前回 2 本となり、今回消失した。林床は総被度が 58% と初回から 13 ポイント減少し、ミヤコザサは初回 10% だったが消失した。前回と同様に、エゾシカの影響が顕著に見られ、樹木や林床植生の減少が進んでおり、影響が蓄積している。

根釧西部 E05 の結果概要 PF 234 林班い小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林(ミズナラ)	尾根	南	1/1/1	2/2/2	H21.9.15/H26.6.21/R4.8.4
毎木	本数密度 (ノ200 m)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	122/80/67	37/10/5	27:56/22:34/7:20		48%/65%(38)/35%(5)
稚樹	BA (m ² /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	48.4/52.8/57.6		0(0)/0(0)/0(0)		0%(0)/0%(0)/0%(0)
林床	本数密度 (ノ200 m)	ササ (被度・高さ・食痕率)	林床種数		
	60 / 3 / 1		26/28/26		
	稚樹食痕率 (夏季%)		林床食痕率%		
52%(37)/33%(33)/0%(0)		60%・0.25/84%・0.39/76%・0.42		10%/7%/4%	

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンバ類を除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本 食痕 樹皮はぎ	
			数	数
ミズナラ	45	7977	13	4
ケヤマハンノキ	2	1173	1	1
シラカバ	6	1059	2	1
トドマツ	5	806	1	
ハリギリ	1	222		
計	67	11517	21	7

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数			
	1回目	2回目	3回目	食痕 3回目
ミズナラ	57			
イヌエンジュ	2	2	1	
ハルニレ	1			
サウシバ		1		
アオダモ				
計	60	3	1	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
ミヤコザサ	20	73.5%	81.6%	56.0%	56	0
オオバナノエンレイソウ	1	0.6%			32	0
チョウセンゴギ	8	0.3%	0.3%	0.6%	13	0
ミズナラ	9	0.3%	0.3%	1.8%	17	2
アキカラマツ	5	0.3%	0.4%	0.1%	24	0
マイヅルソウ	9	0.2%	0.3%	0.0%	8	0
ヒカゲスゲ	5	0.2%	0.1%	0.1%	20	0



E05 は、標茶のパイロットフォレスト内の広葉樹林にある。川沿い斜面のミズナラやシラカバが多い二次林で、林床はミヤコザサが密生する。本数密度、小径木密度、下枝密度は初回から減少傾向である一方、BA は増加した。新規の下枝食痕率は 35%で前回 (65%) から減少したが、高い水準である。樹皮剥ぎは古いものも含めて見られない。稚樹は初回はミズナラなど 60 本あったが、イヌエンジュ 1 本のみだった。林床は総被度が 76%と初回から 16 ポイント増加し、ミヤコザサも 56% 82% 74%と初回からは増加している。林床はササが優占し、初期からの影響が小さいものの、稚樹や成木の減少は進んでおり、エゾシカの影響が引き続き見られる。

根釧西部 E06 の結果概要 PF 234 林班か小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林(ミズナラ)	緩斜面	西	1/1/1	1/2/2	H21.9.19/H26.6.21/R4.8.4
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	63/34/20	34/11/4	15:43/14:18/8:8		35%/78%(78)/100%(88)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	16.1/15.7/13.5		1(0)/1(0)/0(0)		2%(0)/3%(0)/0%(0)
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	66 / 7 / 10		55%・52・5%/55%・50・0%/45%・48・0%		11/16/20
稚樹食痕率 (夏季%)	総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%		
42%(21)/43%(0)/80%(30)	59%・0.31/65%・0.34/52%・0.26		2%/12%/25%		

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類も除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ミズナラ	13	2078	3	3	
ダケカンバ	1	266			
イヌエンジュ	1	253			
ハシドイ	5	112	5	5	
アオダモ					
計	20	2709	8	8	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
ハシドイ	30	6	7	7
イヌエンジュ	2		2	1
ミズナラ	1		1	
イタヤカエデ		1		
アオダモ				
計	33	7	10	8



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
ミヤコザサ	20	45.0%	54.5%	55.0%	48	0
ホザキシモツケ	16	4.0%	4.5%	2.8%	58	11
アキカラムツ	13	0.8%	2.1%	0.4%	30	7
ヒエスゲ	7	0.8%	0.8%		27	1
ヤチダモ	18	0.2%	0.4%		10	1
ミズナラ	6	0.2%	0.1%	0.0%	14	2
チョウセンゴミシ	7	0.2%	0.8%	0.2%	10	2

E06 は、標茶パイロットフォレストの川沿いの広葉樹林にある。ミズナラやハシドイが多く、林床はミヤコザサが優占する。本数密度、小径木密度、下枝密度、BA は初回から減少傾向である。新規の下枝食痕率は増加傾向にあり、今回は 100% で極めて高い。樹皮剥ぎは古いものも含めて見られない。稚樹は初回に比べて減少しており、ハシドイなど 10 本で、食痕率は 80% と高い。林床は総被度が 52% と初回から 7 ポイント減少し、ミヤコザサも 55% 55% 45% とやや減少した。林床食痕率は 25% とかなり高い。前回と同様に、エゾシカの影響が顕著に見られ、樹木や林床植生の減少が進んでおり、影響が蓄積している。

根釧西部 E08 の結果概要 標茶 301 林班と小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林(ミズナラ)	尾根	南西	1/1/1	1/2/2	H21.9.18/H26.6.21/R4.8.4
毎木	本数密度 (／200 m)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	41/32/29	24/13/10	7:28/4:10/4:14		25%/40%(10)/29%(14)
	BA (m ² /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
32.8/37.0/42.1		3(0)/0(0)/0(0)		7%(0)/0%(0)/0%(0)	
稚樹	本数密度 (／200 m)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	44 / 16 / 4		52%・53・15%/69%・50・15%/78%・45・5%		16/26/33
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
23%(23)/81%(69)/100%(25)		54%・0.28/80%・0.37/83%・0.36		8%/5%/7%	

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカシバ類を除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ミズナラ	14	4506	6	2	
ヤチダモ	1	1685			
サワシバ	12	1495	7	2	
ハルニレ	1	741			
イタヤカエデ	1	3	1		
計	29	8429	14	4	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
サワシバ	10	1		
ハシドイ	9	14	4	4
イヌエンジュ	3	1		
アオダモ				
アカイタヤ				
計	22	16	4	4



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
ミヤコザサ	20	77.5%	69.0%	52.0%	45	1
フキソウ	13	2.5%	1.6%	0.5%	18	0
ヤマブキショウマ	11	0.6%	2.4%		17	1
ミズナラ	11	0.3%	0.1%	0.0%	19	2
サラシナショウマ	2	0.3%	0.4%	0.8%	25	0
ハシドイ	1	0.3%	0.3%	0.3%	15	1
コンロンソウ	12	0.2%	1.2%		14	2

E08 は、標茶地区北部の市街地に隣接する広葉樹林にある。尾根沿いの緩斜面で、ミズナラやサワシバが多い。林床はミヤコザサが優占する。本数密度、小径木密度は初回から減少傾向である一方、BA は増加した。新規の下枝食痕率は 29%で前回 (40%) から減少した。樹皮剥ぎは古いものも含めて見られない。稚樹密度は初回 44 本から 4 本へと減少し、食痕率は 100%だった。林床は総被度が 83%と初回から 29 ポイント増加し、ミヤコザサも 52% 69% 78%と増加傾向にある。林床はササが優占し影響が小さいものの、稚樹や成木の減少は進んでおり、エゾシカの影響が引き続き見られる。

根釧西部 NO4 の結果概要 弟子屈 4097 林班よ小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
針広混交林(河畔林)	緩斜面	北西	1/1/1	1/2/2	H21.9.16/H28.7.28/R4.8.3
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	62/48/40	20/9/3	23:35/13:22/12:14		66%/59%(0)/86%(57)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	43.7/50.2/54.4		8(0)/4(1)/2(0)		16%(0)/11%(3)/6%(0)
林床	本数密度 (ノ200㎡)	ササ (被度・高さ・食痕率)	林床種数		
	40 / 0 / 0		14/14/27		
林床	稚樹食痕率 (夏季%)	総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%	
	100%(100)/-/	61%・0.38/61%・0.43/59%・0.42		25%/7%/19%	

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査(今年度調査は太字)を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類も除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本 食痕 樹皮はぎ	
			数	数
ハルニレ	6	3461	1	
オヒョウ	7	3121	3	2
トドマツ	8	2675	5	
ハリギリ	2	783		
ハシドイ	12	558	8	8
計	40	10872	19	12



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	本数	本数	食痕
	1回目			
ハシドイ	20			
トドマツ	1			
アオダモ				
アカイタヤ				
アカエゾマツ				
計	21			



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
クマイザサ	20	49.5%	52.0%	53.5%	71	11
フッキソウ	12	3.2%	1.6%	1.4%	24	0
オシダ	6	2.9%	6.1%	5.5%	31	3
サッポロスゲ	5	2.8%	0.3%	0.0%	27	0
ミヤマシケシダ	3	0.2%	0.4%	0.1%	10	1
コンロンソウ	6	0.1%	0.1%		9	0
ヤチダモ	7	0.1%			7	0

N04 は、弟子屈地区北西部に位置する二次的な針広混交林にある。沢沿いの河畔林でトドマツ、ハルニレ、オヒョウが多い。林床はクマイザサが優占する。本数密度、小径木密度、下枝密度は初回から減少傾向である一方、BAは増加した。新規の下枝食痕率は86%で極めて高く、初回から高い水準が続いている。新規の樹皮剥ぎは見られない。稚樹密度は初回40本だったが、前回に消失し今回も確認されなかった。林床は総被度が59%と初回からほとんど変化はなく、クマイザサも54% 52% 50%と変化はなかったが、林床食痕率やササの食痕率は高い。林床は影響が顕在化していないが、稚樹の消失や小径木の減少が見られ、エゾシカの影響が蓄積している。

根釧西部 W04 の結果概要 阿寒湖畔 2100 林班ぬ小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
針広混交林	緩斜面	北	2/2/2	1/1/2	H21.9.16/H28.7.27/R4.8.5
毎木	本数密度 (／200 m ²)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	27/24.5/21	21/3/6	6:10/8:10/3:3		60%/80%(0)/100%(33)
	BA (m ² /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
39.3/42.2/42.2		4(1)/1(0)/0(0)		20%(5)/6%(0)/0%(0)	
稚樹	本数密度 (／200 m ²)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	136 / 144 / 12		50%・56・20%/43%・59・60%/32%・55・84%		21/23/27
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
100%(100)/93%(65)/100%(75)		57%・0.31/59%・0.37/55%・0.26		12%/25%/19%	

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカシ類を除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
トドマツ	26	9381	10		
シナノキ	2	2026			
ハリギリ	1	1875			
アカエゾマツ	3	1694	1		
エゾマツ	2	1129			
計	42	17096	14	3	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
シウリザクラ	67	72	12	12
トドマツ	1	2	2	
ナナカマド	1			
アカエゾマツ		1		
アオダモ				
計	69	75	14	12



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
クマイザサ	19	31.8%	43.1%	50.0%	55	16
フッキソウ	14	18.2%	5.8%	1.8%	29	0
ゴンゲンスゲ	16	4.5%	3.1%	1.3%	16	0
エゾマツ	3	0.3%	0.0%		56	0
ミヤマタタピ	4	0.2%	0.4%		23	3
シウリザクラ	7	0.1%	5.0%	1.7%	12	3
キハダ	2	0.1%	0.0%		15	0

調査区根釧西部 W04 は、阿寒湖畔地区南部の林道沿いの針広混交林に設置している (4m x 50m が 2 本)。トドマツが優占し、ナナカマドやシナノキなどの広葉樹が混生する。下枝本数は 10 本 10 本 3 本、小径木本数は 21 本 3 本 6 本とそれぞれ減少傾向を示し、クマイザサの被度は 50% 43% 32% と低下した。広葉樹の稚樹は根萌芽由来のシウリザクラの数が多く、初回が 136 本、2 回目が 144 本だったが、今回は 12 本に急減した。下枝食痕率は 60% 80% 100% と増加した一方、樹皮剥ぎ率は 20% 6% 0% と低下した。稚樹の食痕率は 100% 94% 100% と高く、クマイザサの食痕率は 20% 60% 84% と増加した。エゾシカの影響が急速に強まっている。

根釧西部 W05 の結果概要 阿寒川 2140 林班ね小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
針広混交林(トドマツ)	斜面中部	北	1/1/1	1/2/2	H21.9.15/H28.7.27/R4.8.5
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	48/40/32	10/8/5	13:18/1:10/1:3		72%/10%(0)/33%(33)
	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	32.1/33.5/35.4		8(0)/3(0)/0(0)		24%(0)/10%(0)/0%(0)
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)		ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	12 / 6 / 4		43%・43・55%/18%・34・60%/12%・24・20%		37/45/54
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
	83%(83)/83%(83)/100%(0)		73%・0.23/49%・0.12/29%・0.06		9%/10%/13%

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査(今年度調査は太字)を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類も除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
トドマツ	6	2738	1		
エゾマツ	2	2034			
ヤマモミジ	17	1815			
ハウチワカエデ	4	209	2		
サワシバ	1	146			
計	32	7085	4	1	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
トドマツ	13	13	2	
キタコブシ	6	6	4	4
エゾマツ	2	2		
アオダモ				
アカイタヤ				
計	21	21	6	4



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
クマイザサ	20	12.5%	17.6%	11.5%	24	4
ゴンゲンスゲ	18	6.2%	11.5%	7.8%	18	0
タガネソウ	19	2.8%	2.8%		13	2
トドマツ	19	1.0%	1.4%	0.9%	14	1
オンダ	11	0.9%	2.3%	5.7%	13	8
ナライシダ	7	0.9%	1.0%	1.6%	15	1
ズダヤクシュ	4	0.6%	0.2%	0.0%	10	0

調査区根釧西部 W05 は、阿寒川地区の林道沿いに位置する針広混交林に設置している。トドマツが優占し、亜高木層や低木層に広葉樹のヤマモミジ、ハウチワカエデが多く見られる。

毎木の本数、下枝本数、小径木本数、広葉樹の稚樹、ササの平均被度は、いずれも明瞭に減少した。下枝食痕率は 72% 10% 33%と変化し、樹皮剥ぎ率は 24% 10% 0%と低下した。稚樹の食痕率は 83% 83% 100%と高かった。クマイザサの食痕率は 55% 60% 20%と変化した。各種の食痕率は、変動はあるものの全般に高いレベルとなっていて、林分構造にエゾシカの影響が強く現れている。

根釧西部 W06 の結果概要 飽別 2069 林班ち小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
針広混交林(トドマツ)	斜面中部	東	1/1/1	2/2/2	H21.9.15/H28.6.22/R4.8.5
毎木	本数密度 (／200 m ²)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	44/40/36	15/9/6	16:28/11:15/6:10		57%/73%(60)/60%(20)
毎木	BA (m ² /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	39.2/42.1/48.9		5(0)/5(0)/3(1)		12%(0)/14%(0)/10%(3)
稚樹	本数密度 (／200 m ²)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	19 / 4 / 0		5%・37・29%/1%・36・25%/0%・0・0%		43/65/67
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
84%(84)/25%(25)/-		91%・0.34/97%・0.41/58%・0.22		7%/7%/8%	

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンバ類を除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
トドマツ	4	2414	3		
ホオノキ	6	1715	2	2	
エゾマツ	1	1682			
シナノキ	9	1637	2	1	
シウリザクラ	1	531			
計	36	9798	13	6	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
トドマツ	8	7	9	
キタコブシ	8	3		
アオダモ	5	1		
エゾマツ	2	3	2	
シナノキ	2			
計	29	14	11	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
シラネワラビ	17	19.4%	22.3%	18.0%	43	2
イッポンワラビ	14	11.8%	5.3%		40	0
フッキソウ	20	7.2%	10.5%	17.8%	24	0
ゴンゲンスゲ	19	3.2%	15.3%	3.1%	16	1
エゾトリカブト	15	2.0%	1.4%	0.2%	32	0
ムカゴイラクサ	13	2.0%	0.6%	0.2%	13	4
クジャクシダ	8	1.8%	0.6%	0.2%	32	0



調査区根釧西部 W06 は、飽別地区の林道沿いに位置する針広混交林に設置している。トドマツとエゾマツに加え、シナノキやホオノキが混生する。

3回の調査で、毎木の本数、小径木本数、下枝本数、ササの被度、広葉樹の稚樹はいずれも減少し、ササの被度と広葉樹の稚樹はゼロとなった。下枝食痕率は57% 73% 60%と毎回高かった。樹皮剥ぎ率も、12% 15% 10%と比較的高かった。各種の食痕率は高く、採餌圧の影響が蓄積して見られ、特に稚樹やササの消失、不嗜好植物の増加など、林床植生に強い影響が見られる。

根釧西部 W08 の結果概要 雄別 2004 林班わ小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
針広混交林(トドマツ)	尾根	南東	2/2/2	2/2/1	H21.8.31/H28.6.20/R4.8.1
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	41.5/29/90	14/7/2	21:23/11:14/5:7		91%/79%(57)/71%(71)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	58.0/34.4/30.4		12(6)/9(0)/2(0)		26%(13)/22%(0)/6%(0)
林床	本数密度 (ノ200㎡)		ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	4 / 1 / 0		2%・16・0%/0%・9・0%/0%・10・0%		44/40/39
林床	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m ³ /m ²		林床食痕率%
	0%(0)/0%(0)/-		86%・0.42/83%・0.64/108%・1.72		4%/2%/8%

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類も除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm2)	下枝本 食痕 樹皮はぎ		
			数	数	数
トドマツ	146	4994	137		
ハリギリ	1	2219			
ハウチワカエデ	23	2063	3	3	
ダケカンバ	1	1304			
ヤマモミジ	2	977			
計	180	12281	144	5	

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数			
	1回目	2回目	3回目	食痕 3回目
トドマツ	157	161	119	
ナナカマド	3			
ハリギリ	1			
アオダモ		1		
アカイタヤ				
計	161	162	119	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
トドマツ	20	68.5%	35.2%	24.0%	165	0
ハクサンシャクナゲ	11	14.3%	9.8%	12.7%	128	0
シラネウラボ	17	11.8%	21.9%	19.0%	25	1
ハウチワカエデ	4	9.8%	1.8%	0.0%	200	0
ミミコウモリ	11	1.1%	8.0%	4.1%	14	0
フッキソウ	6	0.5%	0.2%	0.4%	14	0
ヤマドリゼンマイ	3	0.4%	1.3%	0.6%	24	3



本調査区は、雄別地区の林道近くの尾根沿いにある針広混交林に設定している。風倒発生後、トドマツの幼木が密生するようになっている。調査区付近でエゾシカの大量の糞が確認されている。

毎木の本数密度は、風倒木の発生で前は 29 本に減少したが、今回は 90 本に急増した。小径木、下枝、広葉樹の稚樹の各本数、およびササ被度はそれぞれ減少し、広葉樹の稚樹とササ被度はゼロとなった。下枝食痕率は 91% 79% 71%と毎回高く、樹皮剥ぎ率は 26% 25% 6%と前回までは高く、今回は低下した。林床を中心に、エゾシカの採餌圧による植生への影響が強く見られる。

根釧西部 W12 の結果概要 上茶路 1078 林班わ小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
針広混交林	平坦地	なし	1/1/1	2/2/2	H21.9.13/H28.6.20/R4.8.1
毎木	本数密度 (/200 m ²)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	35/27/20	6/2/1	1:23/9:10/6:9		7%/90%(90)/67%(56)
稚樹	BA (m ² /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	39.3/39.2/39.3		8(0)/4(0)/3(0)		24%(0)/16%(0)/17%(0)
林床	本数密度 (/200 m ²)	ササ (被度・高さ・食痕率)	林床種数		
	2 / 0 / 0		0%・0・0%/0%・0・0%/0%・0・0%		
	稚樹食痕率 (夏季%)		89%・0.38/97%・0.48/79%・0.27		
0%(0)/-/-		林床食痕率%		5%/8%/19%	

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類も除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm ²)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
イタヤカエデ	3	3175			
エゾマツ	2	2706	1		
ハルニレ	3	1305			
ハシドイ	11	627	9	6	
エゾクロウメドキ	1	41			
計	20	7854	10	6	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
エゾマツ	11			
サウシバ	1			
ミズナラ	1			
トドマツ		4		
アオダモ				
計	13	4	0	



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		3回目	2回目	1回目		
アオミズ	19	21.4%	0.2%	0.0%	15	0
イッポンワラビ	16	18.5%	17.6%		49	3
ハナタデ	18	13.8%	0.0%	0.0%	18	4
フッキソウ	16	7.2%	20.4%	37.0%	19	0
セントウソウ	20	5.1%	1.7%		12	9
ハンゴンソウ	12	3.8%	0.0%	0.3%	53	1
ムカゴイラクサ	17	3.5%	1.0%		17	9

調査区根釧西部 W12 は、上茶路地区の林道沿いの針広混交林に設定している。針葉樹はエゾマツが出現し、広葉樹はイタヤカエデやハルニレなどが見られる。下枝本数は23本 10本 9本、小径木本数は6本 2本 1本、広葉樹の稚樹は2本 0本 0本と、それぞれ減少した。林床ではササが初回から存在せず、クサソテツ、フッキソウなどの不嗜好種が目立った。下枝食痕率は7% 90% 67%と、初回以外の2回は高い値となった。樹皮剥ぎ率は24% 16% 17%と高い値となった。林床食痕率は5% 8% 19%と増加した。各種の食痕率はかなり高いレベルで、植生への影響が強く見られる。